

羽生市議会議員 ゼロからの挑戦！2年目に突入！！

中島 なおき (直樹) 無所属 **35** 歳



BLOG「ゼロからの挑戦日記。」ほとんど毎日更新中！

中島なおき

検索

～羽生市の合併について考える～

日本は現在、明治政府樹立以来続く、国家主導の中央集権国家から、税源や権限を地方に移譲し、地域の事は地域が責任を持って政治を行っていくという地方分権国家に方向転換をしようとしています。明治維新以降、西洋列強に対抗するため国力を急速に増強させるには中央集権システムは必然でした。しかし、今や時代は大きく変わったことは万人が承知している事でしょう。今年の揮発油税の暫定税率についての議論の際、いわゆる都会と田舎では道路についての価値観はまるで違いました。必要なインフラの整備や人口構成、産業などからしても各地域により大きな違いが見られます。各地域によって必要な施策が異なっているのです。そんな中、国が一律の施策で対応しようというのは無

理が生じています。だからこそ、地域の問題、課題に対処するため、税源、権限を地方に移譲し、それぞれの自治体が責任をもって幅広い独自の施策を展開する必要があります。そのためには、まず現在の行政の区割りをある程度大きくし効率化をはからなければなりません。こういったことから、羽生市をより良い方向に導くために合併は必要であると私は考えています。全国で市町村合併がますます進み、近隣の自治体が大きくなっていく中で羽生市だけがポツンと存在しえる事はありません。時代の波に飲まれて大きな自治体に無条件で吸収…。それこそ本当に「羽生市」がなくなってしまう可能性があります。合併については感情的ものをお持ちでいらっしゃる方も多いかも知れません。しかし、次の世代のために

「羽生市の将来」を広く長い視野で捉えることが必要です。私は「選挙」という洗礼を受けた「市民の代表」として9月定例市議会での「加須市、騎西町、大利根町、北川辺町の1市3町での合併の枠組みへの参加に関する決議」に賛成をしました。

9月5日の大利根町長の町議会での発言から始まった今回の羽生市をとりまく合併問題ですが、騎西町を除く3つの自治体は法定期限内での1市3町での合併を推進する決議がなされ(騎西町は1市3町を明記せず北埼玉地区と明記)、現在、羽生市の置かれた状況は大変厳しいものとなっています。今後事態を冷静に見守らなければなりません。

羽生市はなぜ合併協議に参加できないのか…。

加須、騎西 大利根、北川辺の1市3町は、消防、清掃など一部事務組合として長年にわたり広域行政でつながりが深い自治体であることは事実です。しかし、河田市長は議会等で羽生市を含む2市3町での合併を推進する発言を繰り返しており、市議会にて決議が行われる以前から非公式な場において他の1市3町に対して合併の働きかけを行っていました。羽生市が新合併法期限内(H22年3月末日)での合併協議に参加できないのは市財政が問題視されているとの論調の新聞記事もありましたが、羽生市の財政力は加須市とはほぼ同等の数値であり、北川辺、騎西よりも良い数値となっています。決して羽生市財政の状況がその理由ではありません。とは言っても、合併は相手の自治体あってのものです。今回の出来事に対して私自身「なぜ？」と強く思うとともに、到底納得できません。



～羽生総合病院の移転問題について～

羽生総合病院の老朽化に伴い、これまで羽生市は現在地での病院の建て替えを希望し、病院側は神戸地区への移転を希望しておりました。双方の思いが長らく平行線をたどっていましたが、羽生市行政は8/27に新病院建設検討委員会の提言書を受け、病院側の意に沿ったかたちで大きく方向転換をすることになりました。今後は羽生市と病院が一体となり県から許認可を受けるべく働きかけを行っていく事になります。しかし、病院側の希望する土地が農業振興地域の農用地区であることから県の許認可を受けることは困難を極めるという事は理解をしておかなければいけません。一部新聞紙上には羽生市の財政支援の金額までが記載されていましたが、それは事実ではありません。羽生市の病院への支援の仕方については今後協議を行っていくこととなります。(9月定例会市議会において、中島は羽生総合病院の移転問題について3度目の質問を行っています。河田市長の答弁も含め、9/11、12の「ゼロからの挑戦日記。」をご覧ください。)

写真で見る議会内外の活動の一部



< 反対討論 >

長いものに巻かれることなく・・・
最年少でも自分の意見はしっかりと！



< 駅立ち(羽生駅西口) >

トレードマークの「本人旗」
選挙の前も選挙の後も・・・



< 活動レポート印刷 >

特別号を含め11回発行しました



日本大学法学部本館

< 大学卒業 >

優秀な成績で・・・(笑)
13年遅れの卒業



< 若手政治家養成塾勉強会 >

議員として政策を実現させる方法



< 9月定例会市議会にて >

議員となり5回目の一般質問

- ・羽生総合病院の移転問題について
- ・放課後児童対策について
- ・特別支援教育について

～中島なおき略歴～

S47年11月鴻巣市生まれ 184cm 75kg 埼玉栄高校普通科 日本福祉教育専門学校社会教育学科 日本大学法学部政治経済学科卒業 茅ヶ崎市内の児童福祉施設勤務を経て鴻巣市社会福祉協議会職員となる26歳にて羽生市に転入 千代田政治経済研究会に参加したことにより、埼玉県内外の地方議員と出会い自らも政治の世界に飛びこむことを決意 白土幸仁氏(春日部市議)主宰の若手政治家養成塾に入塾 H19年4月羽生市議会議員一般選挙にて1,473票を賜り羽生市議会最年少当選(34歳) 現在、「持続可能な世の中の構築」「共生社会の実現」を目指し活動するとともに、市政の流れを変えるべく日々奮闘中！2児の父親でもあり子育てにも日々奮闘

※政治活動の様子が新聞、テレビ、雑誌、書籍などに複数回取り上げられています。

★ご意見、ご感想は nakajima-na_0614@ric.hi-ho.ne.jp まで